

科目名 Course Name	ピアノレパートリー Piano Repertory			ナンバリング No.	K4-016		
年次	2年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	川田将人、川島麻祐未						
連絡方法	C-Learning で対応。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2, DP3, DP4						
授業の概要と 到達目標	<p>音楽を通して幅広い表現活動を可能にするために、ピアノ演奏におけるソロ、連弾、弾き歌い、伴奏法の習得を図る。様々なジャンルから受講生の希望する楽曲、また採用試験での課題や内定先から提示された楽曲の指導を行う。保育現場で子どもたちの情操を養うことのできる音楽表現を目指す。</p> <p>この授業の到達目標は以下の4つである。</p> <p>① 保育者が、コードを使用した柔軟な伴奏方法を修得する意義を理解し、説明できる。 ② 楽語や記号、フレージングなど楽譜からの情報を豊かな表現に繋げることができる。 ③ コードの基本を理解し、簡単な伴奏で多様な幼児曲を演奏することができる。 ④ 人前で演奏することを意識したピアノ伴奏、保育者としての意識を持った弾き歌いを行うことができるようにする。</p>						
授業の方法	グループ演習と個人レッスン形式を組み合わせた授業形態である。第10回授業以降は個人レッスン形式のみで運営する。最終授業において発表を行う。以下には標準的授業計画を示す。						
学習成果	L01	コードを使って楽曲を演奏することができ、幼児曲の伴奏や弾き歌いにおいて正しく用いることができる。					
	L02	豊かに表現する喜びを享受し、保育者として子どもたちの表現活動を指導することができる。					
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック	個々の学生のレベルに応じて課した技術的課題について、毎回授業内でフィードバックする。						
教科書/ 参考図書	改訂 幼児のための音楽教育(教育芸術社)、就職試験課題曲、その他(自由曲)						
履修上の留意点 やルール等	●短い時間でも毎日ピアノに触れ練習すること。●使用教室への飲食の持ち込みを禁止とする。 ●事前事後学習に費やす時間の目安は45分とする。						
担当教員の実務 経験	●担当教員(職種:ピアノ講師 職歴:10年以上) ピアノレッスンにピアノ指導の経験を活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	与えられた課題を事前事後の学習として練習して授業に臨んでいるか、レッスンの内容を実践に繋げているかを評価する。また設定された7回分の課題に全て取り組むことで最高評価とする。	50			
レポート/作品					
発表	実技発表形式で行う。各課題楽曲の演奏意義の理解、表現力、演奏技術、難易度を総合的に評価する。		50		
小テスト					
試験					
その他					
合計		50	50		

回数		授業計画
1	授業内容	授業概要、評価方法、受講上の注意、担当者別による教材の選定と課題
	事前・事後学習	選定した曲を正確に読譜して完成させられるように、時間を定めて取り組む
2	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い 簡易伴奏法①
	事前・事後学習	課題①
3	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い 簡易伴奏法②
	事前・事後学習	課題②
4	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い コード基本形
	事前・事後学習	課題③
5	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い コード転回形と実践
	事前・事後学習	課題④
6	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い 様々な調のコードについて
	事前・事後学習	課題⑤
7	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い 既存楽曲によるコード演奏の実践
	事前・事後学習	課題⑥
8	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い コードによる伴奏法
	事前・事後学習	課題⑦
9	授業内容	幼児曲伴奏法及び弾き歌い コードによる伴奏法②
	事前・事後学習	課題⑦の見直しを行い、より工夫した伴奏形を作成する。
10	授業内容	発表課題曲の指導①
	事前・事後学習	楽曲の構成を理解し、正確に読譜をし、弾けるようにする。弾き歌いレパートリーもリズムに注意し、子どもたちが歌いやすいテンポで弾けるようにする。
11	授業内容	発表課題曲の指導②
	事前・事後学習	メロディーラインを歌い、強弱記号や速度記号にも注意しながら練習する。
12	授業内容	発表課題曲の指導③
	事前・事後学習	楽曲の構成を理解し、楽譜からの情報に注意する。
13	授業内容	発表課題曲の指導④
	事前・事後学習	楽曲を人前で演奏することを意識しながら完成させられるように練習する。
14	授業内容	発表課題曲の指導⑤ 楽曲の完成
	事前・事後学習	楽譜からの情報に注意し、豊かに表現でき、音楽的に演奏出来るように完成させる。
15	授業内容	自由曲発表と講評 今後の課題及びアドバイス
	事前・事後学習	自由曲の講評を基に今後もレパートリーを増やす。